やまゆり

本号は**「ボーイスカウトとあそぼう！ワクワク自然体験あそび」**特集号としてお届けします。

令和２年初頭より猛威を奮い始めた新型コロナウイルスは、子供たちの生活を一変させました。屋外での活動は自粛を余儀なくされ、自然の中で元気に活動する機会は奪われました。この状況を憂慮した文部科学省では、R2 年度事業として「子供たちの心身の健全な発達のための子供の自然体験活動推進事業」を立ち上げ、ボーイスカウトやガールスカウト等青少年育成団体にその受託実施を呼びかけました。

この事業を受託してボーイスカウト日本連盟が立ち上げたものがこの**「ボーイスカウトとあそぼう！ワクワク自然体験あそび」**でした。

県連から各地区、団宛に情報発信をしたのが 7 月 17 日で、8 月の下旬に日本連盟から各県連盟に対しオンラインで事業の詳細説明がありました。それを受けて神奈川連盟は、9 月上旬に各団宛関係資料を送付し、次いで 9 月 12 日（土）・13 日（日）に各団宛オンライン説明会を開催致しました。

時間の無い中ではありましたが、各団・地区等種々工夫を凝らして 59 の事業が申請されました。（日本連盟全体では 848 事業の申請がありました。）

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う「緊急事態宣言」が発出されたこともあり、約半数の事業が中止や延期を余儀なくされ、R3 年 3 月 21 日時点で神奈川連盟では 30 の事業が開催されるに留まっていますが、参加者数(BS 関係者以外の一般参加児童数)は 1,143 名を数えるに至っています。この数字は、10 月～12 月に開催された全国 373 事業の参加者数合計 9,040 人の 12%を占めています。

尚、緊急事態宣言が解除された 3 月下旬にも 6 つの事業が予定されていますので、もう少し増加することが期待されます。

それでは、先ず各地区の「ワクワク自然体験あそび」の実施状況を１）川崎地区、２）横浜地区、３）みなと地区、４）湘南地区、５）県央地区、６）西湘地区の順にご報告します。

各地区報告の後に、本事業に係るデータ、参加団アンケートの概要等をご紹介します。

≪川崎地区≫

川崎地区の事業申請は、川崎第 43 団（4 事業）・同 53 団・54 団・57 団各 1 事業で、合計 7 事業でしたが、緊急事態宣言発出に伴い残念ながら 5 事業が中止となり、実施は次の 2 事業に留まりました。

『さつまいもほり』　　川崎第 53 団

11 月 15 日（日）午前中に「半日型」で実施。団広場の畑で育てたさつま芋をみんなで収穫し、焼き芋にしていただきました。小学 1･2 年生を対象に募集したところ 21 人の児童が参加してくれて、その内 2 人が入団することになりました。

『いつもの場所で、いつもと違う遊びをしよう！』
川崎第 54 団

12 月 13 日（日）午前中に、普段活動場所としてお借りしている小学校の中庭と小学校に隣接する公園で、新型コロナ感染予防対策を施して、「自然体験あそび」を実施しました。

「いつも遊んでいる場所で、いつもとは違う遊びをしよう！」と、リーダーや保護者が協力して 6 つのブースを設けました。

① どんぐりや銀杏、栃、クルミ等近隣の自然物を暗箱に入れて手探りであてるゲーム
② どんぐり独楽や木の実のリースの工作
③ ハンマー等の重さ当てゲーム
④ クマ・シカ・ウサギ等動物の足跡当てクイズ
⑤ よく晴れた冬の青空の下、木々に囲まれた広場で歌い踊るブース
⑥ 大きなダンボール箱を用いた「ダンボール箱戦車」遊び等です。

13 人の体験児童に、保護者の方や川崎 54 団のスカウト等 100 名余が加わり、全員を学年・年齢がバラバラな 10 のグループに分けて、各ブースを体験して廻りました。

アンケートでは、お子さんのみならず保護者の方たちからも「公園という小さな自然の中で、年代を超えた触れ合いができて楽しかった」との感想を戴きました。今のところ、1 人の入団が見込まれています。

（川崎地区　境）

≪横浜地区≫

『いつもと違う公園あそび』　横浜第 103 団

私たち横浜第 103 団は毎年 11 月にたまプラ

ーザにある「美しが丘公園」で「ボーイスカウト体験会」を開催し拡張活動を行っていますが、今回は「ワクワク自然体験あそび」をその体験会として実施しました。

団単独の活動とは違い日本連盟主催、文部科学省委託事業ということもあり、団内で担当者を決め県連の打ち合わせから参加して貰いました。

申し込み専用のメールアドレスを取得し、チラシの QR コードから簡単にアクセスできるようにし、近隣の小学校中心にチラシを配布させて貰いましたが、文科省のお墨付きということもありスムーズに進みました。

定員 50 名で申込受付を開始したところ 1 週間で 100 名以上の申し込みがあり、当日の対応が不可能になる恐れが出たため慌てて締め切らせていただきましたが、コロナ禍のため子供たちが野外活動を渇望していることを改めて知らされました。

プログラムは各隊がそれぞれアイディアを出しあい、ビーバー隊はドングリのコマづくりとミクロハイク、カブ隊は新聞紙でパチンコを作りドングリのタマ当て競技、ボーイ隊は火おこし機、虫眼鏡、マッチ、着火棒での火起こし体験と簡単なロープ結びを参加者に体験してもらいました。

新型コロナ感染予防対策として公園の一画をスズランテープで囲い、参加者家族全員に検温と消毒をしてもらい、リストバンド着用で区別させてもらいました。いつもの体験会ではカートンドッグ、焼きマシュマロ、綿あめなどを行うのですが、今回は見送りました。

11 月 8 日(日)当日は天候に恵まれ、申込みされた 103 名中 73 名の参加がありました。キャ

ンセルのメールにも担当者が今後の体験につながるように一人ずつ丁寧に対応させていただきました。

当日参加の申し込みもかなりありましたが、事前受付制を取っていたためあきらめていただきました。参加者は各隊のスカウトに交ざりみんな楽しんでいましたが、子どもたちが楽しそうに遊ぶ姿は、見ている私たちも元気をもらえました。保護者の方も熱心に団委員、各隊リーダーにスカウト活動について様々な質問をしていました。

心配された現場でのトラブルはなく無事に終了しましたが、これも団委員、育成会員のおかげだと感謝の気持ちいっぱいです。

「ワクワク自然体験あそび」をもとに入団したスカウトは１名（※）でしたが、チラシの配布、近隣へのスカウト活動の広報に多大な役割を果たせたと思っております。この経験を活かし来年度もぜひチャレンジしたいと思っています。

（横浜第 103 団　団委員長　彦井文男）

（※その後「4 名に増えました。」追記）

≪みなと地区≫

みなと地区では、2 月末までに 12 個団が計 13 回、開催しました。各団の Facebook や Web サイトでの報告から、地区広報委員会が原稿をまとめてみました。

最も早かったのが**横浜第 100 団**で、10 月 25 日に金沢区海の公園で実施。園児や児童 255 人が参加し、スタンプラリー形式で行いました。モンキーブリッジ、火起し体験、１本橋、くもの巣ネット、ダンボール戦車、ツイストパンと盛りだくさんなポイントでした。

同日には**横浜第 88 団**が、「ハッピーハロウィンラリー！」として地元の公園で実施。「カブ隊 けいおん」の集会で準備してきたカブ隊バンドの演奏で始まり、カブが作ったゲームボードやクモの巣などを実施し、30 人を上回る参加がありました。

11 月 7 日は、**横浜第 115 団**が舞岡公園と自団野営場で「ぼくらのひみつきちで遊ぼう！」という体験活動を展開。木の葉などを使った栞作りやバブロケットの飾りつけ、暗夜行路、火

おこしなどで約 50 人が参加してくれました。

11 月 8 日は 3 個団が活動。**横浜第 65 団**は「あつまれ！森の探検隊」と題して、善部の森に集まった子どもたちがカブやビーバーと一緒に、ロープ渡りやブランコを体験し、どんぐりでデンデン太鼓やストラップを作り、森の中のお菓子の宝探しゲームで遊びました。

横浜第 99 団は、上郷市民の森に 40 人以上が参加し、森の会や地域の方の支援も受けて実施しました。団のみずき広場で、歌やゲーム、ダンスで楽しんだあと、周囲の川や森で自然を見つけてシールを貼るフィールドビンゴや、ドングリこま工作を体験しました。

横浜第 96 団は、ボーイ部門対象の「ワクワク登山教室」を箱根外輪山（明神ヶ岳、明星ヶ岳）で実施。部活などでキャンセルがあり参加は親子 2 組 4 人でしたが、RS や VS4 人も同行し、好天の箱根路で山のベテラン RS 隊長から疲れない歩き方を教わりました。

11 月 15 日には、**横浜第 114 団**が洋光台西公園で、「全集中 修行の山 菌殺隊への道」という題名でゲームラリーを行い、30 人近くが参加しました。蜘蛛の巣くぐりやフン転がし、的当て、ブンブンゴマ作りをし、鈴のマスコットをゲットして菌殺隊の仲間入りをしました。

11 月 22 日は、**横浜第 96 団**が小雀公園で「秋を五感で感じよう」をテーマにポイントラリー。50 人近くが参加し、保護者と絆ロープでつながって目隠しして音を頼りに歩く「触れない暗夜行路」などコロナ禍対応を工夫。人気は空き缶ポップコーンで、カブのロープ教室も。

11 月 29 日は 4 つの団が実施。

横浜第 11 団は「ぼくらの冒険宝島」と題して、久良岐公園に集まった 30 人の子どもたちと一緒に、海賊の仕掛けたワナを乗り越えて宝物をいただくというプログラムで、葉っぱで遊んだり、ロープで遊んだり、蜘蛛の巣をくぐったりして遊びました。

横浜第 27 団はくぬぎの森で 13 組の親子が参加して「もりのあそび」を実施。新聞紙とホイルで巻いたサツマイモを熾火で焼き芋にしたり、モンキーブリッジや暗夜行路、弓矢のアトラクションを体験。おにぎり弁当を食べて、グループ対抗のゲームで遊びました。

横浜第 43 団は本牧山頂公園で、「Go To アウトドア！ みんなで楽しく遊ぼうよ」を行い、大勢のお友だちと一緒に、芝生の坂を使った「ゴロゴロころがっちゃおう」、動物になってのしのびよりをして、見晴山を目指して進みました。

横須賀第 15 団は、船越神社などで「ゴー・トゥー　そとあそび！」を展開。30 人以上のお子さんと保護者が参加し、チーム対抗で、森のキムスや綱渡り、丸太切り、プレート作り、吹き矢、グラグラ橋などのアトラクションを楽しみました。

12 月 6 日には、**横浜第 107 団**がコムラズの森野営場で「作って遊ぼうサバイバル」を行ったようです。

その後は、2 度目の緊急事態宣言などで中止

が２個団でてしまいましたが、延期した５個団は３月末までに実施する予定となっています。

個人的な感想は、ダイレクトな組拡行事と違って、地域に野外でのあそびを体験してもらうという趣旨であるのは、スカウト教育法の８つめ「社会との協同」の実践そのものだなと実感。こうやって地域社会にスカウト活動を知ってもらい、入団に至らなくてもボーイスカウトファンを作ることも大切だと思いました。

（みなと地区広報・中川）

≪湘南地区≫

湘南地区では、4 個団が申込み手続きを行いましたが、主に団内での準備が整わなかったことから２個団が実施に至らず、また準備の整っていた１個団が緊急事態宣言の発出に伴いやむを得ず実施を断念したため、最終的に実施に至ったのは藤沢第６団のみとなりました。

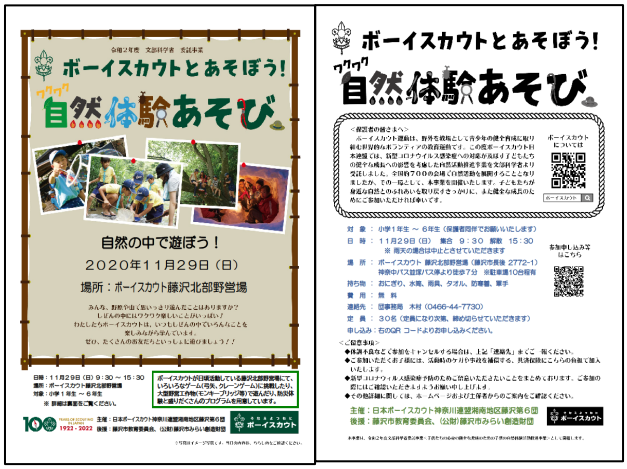
以下、**藤沢第６団**の実施状況を、団委員長の柳川氏の協力を得てご紹介します。

［申込み］

7 月に事業の予告はあったものの、具体的な案内が届いたのが９月６日、その週末に説明会、2 週間後の９月 25 日が申込期限であり、団内での説明と承諾を得るための十分な時間がなく、事後承諾の形となりました。実施日は 11 月 29 日とし、準備期間は約２ヶ月間でした。

［広報］

藤沢市みらい創造財団・教育委員会の後援を頂きましたが、初めての試みであったため、承認を頂くまでに約２週間を要しました。内諾が得られた段階で、ネット印刷のチラシ（1,300 部）を発注しました。



小学校の校長役員会で説明を行うことができたため、小学校でのチラシの配布はスムーズに行えました。但し、配布ができたのは実施の一週間前で、近隣の２校の小学１年生から３年生に約 850 枚配布しました。

また、11 月 8 日～12 日に公民館で行われたパネル展示（公民館まつりの中止に伴い開催）でも広報活動を行いました。また、A3 のポスターも作成し、協力頂ける掲示板に掲載しました。

［感染防止対策］

感染防止対策として、次の対応を行いました。

① 申込みされた保護者宛に詳細な案内メールを送信し、参加児童と同居家族に対し健康調査票の記入を依頼

② 当日、受付での健康調査票の確認、非接触型体温計での検温を実施
③ 各ポイントにアルコール消毒液を設置
④ 用具は自亜塩素水で消毒
⑤ マスクの着用
⑥ 昼食はおにぎり持参で家族単位

［プログラム］

募集に応じた一般参加者 30 名と藤沢 6 団の BVS、CS20 名の合計 50 名を 10 名×5 グループに分け、次の 5 つのゲート（ブース）を各 40～50 分で体験して頂くことにしました。
また、予備のプログラムも用意しておきました。

Ｇ１：アクティブ系（モンキーブリッジ、滑車）
Ｇ２：ワイドゲーム（弓矢、クレーンゲーム）
Ｇ３：防災体験（火起こし、湯煎でパンケーキ）
Ｇ４：キャンプ体験（タープ張り、サイト見学）

Ｇ５：お土産作り（木のメダル、飾り紐づくり）
予備：作って遊ぼう（割箸鉄砲、ビニール落下傘）

アイスブレーキングの後、午前 2 つ、午後 3 つ回る進行としました。

アクティブ系のブースでは、安全対策として、ハーネスと命綱、ヘルメットを着用して頂きました。

［入団へのつながりとふりかえり］

12 月の時点で、参加者のうち小 1 男児 2 名、小 3 女児 2 名が入団しました。

初めての取組でしたが、入団に繋がり総体的に満足しました。 準備期間が短く、特に広報の部分では課題があったと思います。小学校にチラシ配布する前に、ＨＰからの申込みで半数に達しましたが、日連のＨＰだけでは会場が判り難く、誤って申込まれる例もありました。また、プログラム的にも、会場的にも、３０人が受け入れの限度でした。今回のスタッフは約３０名（４名/ブース×５カ所+引率５グループ+受付２名+総括）でしたが、余裕はありませんでした。

今後、野外料理など会話が弾むプログラムも行えればと思います。

［組織戦略委員のコメント］

藤沢第 6 団の報告によると、通常の募集活動とは異なり文科省事業であるため、校長先生を通じて小学校に案内の配布が可能で、保護者に関心を持って頂くことができたことが、短期間に多くの参加者を集めることができた理由の一つであり、学校とのつながりが持てたことは意義があるとのこと。これは、残念ながら諸般の理由で実施に至らなかった他団においても同様で、学校とのつながりやボーイスカウトの認

知度の向上には多いに役に立った有意義な事業であったと思います。今回は、準備期間が短く、力のある団でないと実施は困難であったと思いますが、事業に協力する中で結果的にスカウトの入団にも結びついており、次年度以降は、地区内の多くの団で事業に参加できればと思いました。

（湘南地区　足立和郎）

≪県央地区≫

県央地区における「わくわく自然体験あそび」の実施状況 は次の通りです。

［県央地区の実施団］

県央地区では、8 個団が 12 事業の開催を申請しました。内 1 日型が 4 件で、残りは何れも半日型でした。新型コロナ禍による緊急事態宣言再発出に伴う開催延期・中止が 5 件ありました。

早々に 10 月 18 日に開催した際には、十分な時間がなく日本連盟からの資材が間に合わない等多少のトラブルはありましたが、関係者の支援により、無事実施に至りました。

地区内の実施状況をご紹介します。

[自然体験あそび]

相模原第 7 団の 1 回目は、10 月 18 日に「ダンボールであそぼう」を実施しました。

天候が良くなく屋内での実施となりましたが、段ボール基地づくりに参加したこども 15 名は皆真剣で、夢中になって取り組んでいました。

2 回目は 11 月 15 日に「ゴールをめざして」を実施しました。この日は天候にも恵まれ、「観察ハイキング」に参加したこども 9 名は元気にハイキングを楽しみ、自然観察体験、ネイチャービンゴ、どんぐり拾い、森の音を聴く、木の音を聴く等で季節を感じていました。

広報活動は、チラシ配布、わくわく自然体験あそび HP で行い、入団者 1 名となりました。

海老名第 2 団は 11 月 28 日に「あつまれ！森の楽校」を開催しました。

どんぐり探し、木挽き、草花観察、竹馬、宝さがし等体験会では、汗をかきながらも楽しそうに取り組んでいました。森のもつ役割についての理解を深め、またゲームを通してスカウト活動のたのしさを参加者・保護者に伝えられたと思います。こどもが 107 名とエントリー外でも非常に多くの参加者がいました。

広報活動は、チラシ配布、わくわく自然体験

あそび HP で行いましたが、知っていただくだけで残念ながら「入団者なし」でした。

相模原第２団は 11 月 29 日に「竹でモビールを作ろう！」を実施しました。

竹クラフトとして竹コップ、竹水筒、竹のモビール作製や竹竿を使用した魚釣りゲーム等を行いました。BS スカウトの支援もあり、23 名の参加者はクラフトを通じて自然の竹の持つ役割についての理解を深め、おいしいゲームを通してスカウト活動の楽しさを体験していました。

広報活動は、チラシ配布、わくわく自然体験あそび HP で行いましたが、残念ながら「入団者なし」でした。

12 月 6 日に**相模原第 8 団**は「遊ぼう！自然体験遊び」を開催しました。

ターザンろーぷ、暗夜行路、木のペンダント作り、タワーダム、ボーイ隊では立ちかまどを使った焼きマシュマロを提供。70 人近くのこどもが参加、大きなイベントの良い経験になりました。

広報活動は、チラシ配布、わくわく自然体験あそび HP で行いましたが、こちらも残念ながら「入団者なし」でした。

同日**相模原第 11 団**は「キャンプ de クリスマス」を開催しました。

大和第 6 団は 12 月 20 日に「泉の森でアウトドア体験」を開催しました。

3 つのコーナー（①森の探検コーナー、②火起こし体験コーナー、③テント設営体験コーナー）の内から事前にメールで希望コーナーを確認）に分かれて実施しました。

森の探検・ネイチャーゲーム・火おこし・テント設営などの体験をし、普段使ったことのないマッチを使用して火を起こし、起きた火でたき火をしながら「松ぼっくり炭」を作りました。

テント初体験の子には「ドームテント」、ソロキャンプを目指す子には「ピークフライ」、大人の方には災害時に役立つ「三角（テトラパック）テント」等、いろいろなテントの建て方とそれに必要なロープ結び（結索法）を楽しみ

ながら覚えて頂くと共に、参加者 19 名には松ぼっくりの花炭をお土産に持って帰っていただきました。

広報活動は、チラシ配布、わくわく自然体験あそび HP で行いました。

開催直後に緊急事態宣言発出となり隊活動がネット中心となったため、体験者のフォローは工作とそれを使ったゲーム（紙皿フリスビーゴルフ）で行い、入団につなげる予定です。

［ワクワク自然体験あそび］

文科省委託事業ということで、チラシ配布や後援の取得は容易に行えました。

ボーイスカウトの認識を高めることには繋がった面もあるとは思いますが、文科省委託事業の制約もあって積極的な勧誘は控えたこともあり、入団につながった数は体験参加者数に比して少ないように思われました。あくまで「こどもの自然体験活動」でした。「如何にして体験会参加者に BS 活動に関心を持っていただき入団につなげていくことができるか」が課題だと思います。

≪西湘地区≫

ワクワク自然体験あそび in 茅ヶ崎

西湘地区では、地区内を５つのエリアに分けて同じプログラムを展開・実施する予定でしたが、12 月６日（日）に開催した茅ヶ崎・寒川エリアが終了し、その後の新型コロナ感染防止の緊急事態宣言発出により、残りの平塚(平塚・大磯・二宮)、厚木(厚木・伊勢原・愛川)、秦野の３エリアが中止、小田原(小田原・足柄・大井)エリアは３月 28 日（日）に延期となってしまいました。

茅ヶ崎・寒川エリアのワクワク自然体験あそびは、文部科学省からの委託事業であり、神奈川県教育委員会、茅ヶ崎市と寒川町の各教育委員会からの後援を受け、小学校へのチラシ（5,500 枚）の配布もスムーズに行うことができました。

そのおかげもあって、日本連盟のホームページにアップした途端に予定した定員の 50 名を上回り、80 名以上の参加希望者があり、小さなお子さんを持つ親御さん達の関心の高さを感じました。

西湘地区のワクワク自然体験あそびプログラムは、①宇宙のふしぎ、②さかな釣り、③どんぐりコマ、④枯葉アート、⑤かまぼこカーレースの５つのコーナーを設定しました。

各コーナーの企画準備は地区委員会が分担し、当日は入場時の検温チェック、コーナー毎の手指の消毒、三密防止対策の会場パトロールなど十分な感染対策を実施し、各コーナーでは、茅ヶ崎・寒川の各団のスタッフと地区委員が運営を行い一般の参加者と参加したスカウトは皆、プログラムを楽しんでもらえました。

① 宇宙のふしぎ

野口聡一宇宙飛行士（茅ヶ崎第２団）のスカウト時代の活動の紹介と危険な宇宙空間での作業の大変さをお話しして、フィ

ルムケースをロケットに見立て、入浴剤のバブをいれて少量の水を灌ぐことで、勢いよく飛ぶロケット作りを行いました。

② さかな釣り

紙で作った魚を磁石の付いた釣り竿で釣り上げました。

③ どんぐりコマ

事前に用意した沢山のどんぐりを参加者が拾い、コマとヤジロベエを作りました。

④ 枯葉アート

事前に集めた枯葉を使ってＡ４の紙に貼り付けたアートを作り、パウチして家に持ち帰ってもらいました。一般の参加者には事前に用意したピカチューセットとトトロセットを選んでもらって作りました。

⑤ かまぼこカーレース

西湘地区のカブラリーで以前から行っていたもので、小田原市内の蒲鉾店である山上かまぼこ店から提供されたかまぼこ板にタイヤを取り付け、ボディーを工夫して作ったものを会場に設置した特設コースで走らせるものです。スカウト達は、事前に集会で作製して参加し、一般の参加者は、スタッフが作ったクルマに色を塗ってレースに参加しました。

【ワクワク自然体験あそび・アンケートから】

神奈川連盟では、本事業を実施した 30 の主催団・地区に対しアンケートを実施しました。1 月下旬迄に回答のあった 16 個団の評価は「実施して大変良かった」が 7.5 個団、「まあまあ良かった」が 7.5 個団で、肯定的評価が 9 割超となりました。

「開催して良かった点」で多かった項目は、①スカウト活動の周知がはかれた。②学校の協力を得ることができた。③行政の支援。④旗やノートの配布。⑤日連の募集システム等でした。

募集活動が入団にどれだけ繋がったか聞いたところ、アンケート回答（1 月下旬）時点で「入団・もしくは入団見込み」合計 55 名（16 個団対象）とのことです。「開催方法」や「用意したプログラム内容」等により、リクルート面では差があったようですから、今後できるだけ分析してフィードバックしたいと考えています。

本事業には全国から 39 県連が参加。1 月 7 日時点での開催実績は 374 回・参加者合計 8,012 名となっています。神奈川連盟は 30 回（回数では 3 位）を開催し、参加者数 788 名は最多となっています。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

日本ボーイスカウト神奈川連盟 広報紙 『やまゆり』
題字 元連盟長　津田 文吾 （当時神奈川県知事）
発　行　令和 3 年（2021 年）　3 月 30 日
発行人 日本ボーイスカウト神奈川連盟理事長 藤本欣司
編集人 神奈川連盟組織戦略委員会 委員長　境　紳隆